1. 剪定と刈込

剪定とは、美観上や生理上、実用・機能上、病虫害防除などの目的のために樹木の枝葉を取除く作業のこと。剪定の種類には透かし剪定、切り戻し剪定、間引き剪定がある。刈込とは、主として生垣や潅木の寄植えなどで、枝葉の先端を切りそろえて美観を保つために行う作業のこと。その他に花後の花殻摘みや摘蕾、芽かき、マツのミドリ摘みやもみあげなどがある。目的に合わせて適切な剪定を行うことが大事である。

＜表1＞剪定の目的

美観上	樹木の美しさや庭の美しさを保つように、不要な枝や幹を取除く剪定。庭園の維持管理。
生理上	移植時などで根を切られて水分吸収が抑えられた場合に、水分の蒸散を抑えてバランスをとるために枝や葉の量を少なくする剪定。また、台風などで折れた枝などは腐朽菌の進入を防止するためと美観のための剪定。移植時や災害時。
実用・機能上	果樹など場合に行う結実や開花を促すための剪定。生垣など枝葉が密生させるための剪定。街路樹などで台風対策や電線との接触防止のための剪定。果樹栽培、生垣や街路樹の維持管理。
病虫害防除	日照や風通しを良くするために剪定。

＜表2＞剪定の種類

透かし剪定	枝をつけ根から切り取る。大透かし（主枝などの大枝を切ること）、中透かし（副枝などの枝を切ること）、小透かし（枝の先端部の込み合った部分を切ること）などがある。自然風仕立ての剪定に行われる。樹木の大きなストレスを与えることなく、樹形を保てる。
切り詰め剪定	強剪定ともいい、大きくなりすぎた木の幹や太い枝を幹近くに小枝を出すために切り詰める剪定で、樹木が大きくなりすぎた場合や山取りの樹木の育成時などに行われる。樹木には大きなストレスを与え、樹形が大きく変化する。
切り戻し剪定	切り詰め剪定より弱い剪定で、樹冠を一回り程度小さくする剪定で、自然な樹形を保させながら樹冠を抑えられる剪定で、透かし剪定と切り戻し剪定を同時に行うのが一般的。
間引き剪定	株立ち上の低木などで行う剪定で、主な幹を3～5本残して、残りを根元から切り取る。または自然風の雑木の庭では、根元での太い幹を剪定し、細い幹に更新させる間引き萌芽更新となる剪定。
刈込剪定	切り戻し剪定の一種で、生垣や萌芽力の強い潅木などの高さや葉張りを抑えて形を整える場合などに行う剪定。刈込と同時に古枝や枯れ枝などの剪定をする。

・ヒマラヤスギの切り戻し剪定と透かし剪定

・低木の透かし剪定

 無断転用禁止

2. 低木の刈込

刈込を花芽の分化後に行うと花つきが悪くなるので、花木の場合は必ず花芽の分化前、花が咲いた後、速やかに刈込むことが重要となる。春や秋に開花させる花木は7～8月頃に花芽を分化させるものが多い。

また、花芽の形成時期と花芽の着く場所や萌芽力が弱いなどで刈込が難しい低木がある。潅木類の混植の場合には刈込ハサミが使用できないなど点から、刈込をする混植には適さない。花芽の形成時期と花芽の着く場所を考慮して透かし剪定などの剪定をする。

刈込の時期と回数としては、5～6月頃に年1回行うのが一般的で、萌芽力の強いイヌツゲやキャラボクなどでは5～6月と9～10 月の年2回行う。アベリアなどでは年3回行うこともある。

＜表3＞刈込が難しい低木

常緑	シャクナゲ類、カルミア、アセビ、センリョウ、ヤツデ等
落葉	アジサイ類、ミツバツツジ、ミツマタ、ノリウツギ、ニワウメ、コデマリ、オオデマリ、ガマズミ等

・セイヨウシャクナゲ	・アジサイ、ガクアジサイ	・ミツバツツジ

4. 生垣の刈込

生垣の刈込は一般的に年1回、6月に行う。ベニバナトキワマンサクやウバメガシなどのように萌芽力が強い樹木の場合は年2回行うのが望ましい。

・イヌツゲの生垣とドウダンツツジの角刈込	・萌芽力の強いベニバナトキワマンサク	・無剪定のシルバープリペットの生垣

5. 一般的な樹木の剪定時期

＜表4＞一般的な樹木の剪定時期

針葉樹	真冬以外で、10～11月頃と春先。
常緑広葉樹	春の新芽が固まった5～6月頃と、寒さの害の受けない9～10月頃。
落葉広葉樹	葉が出揃い固まった7～8月頃と、休眠期の11～3月頃。
花木	花芽形成の時期を考慮しながら、適期に剪定する。
果樹	花芽形成の時期とつき方を考慮しながら、適期に適切に剪定する

 無断転用禁止

6. 一般的な樹木の剪定の回数

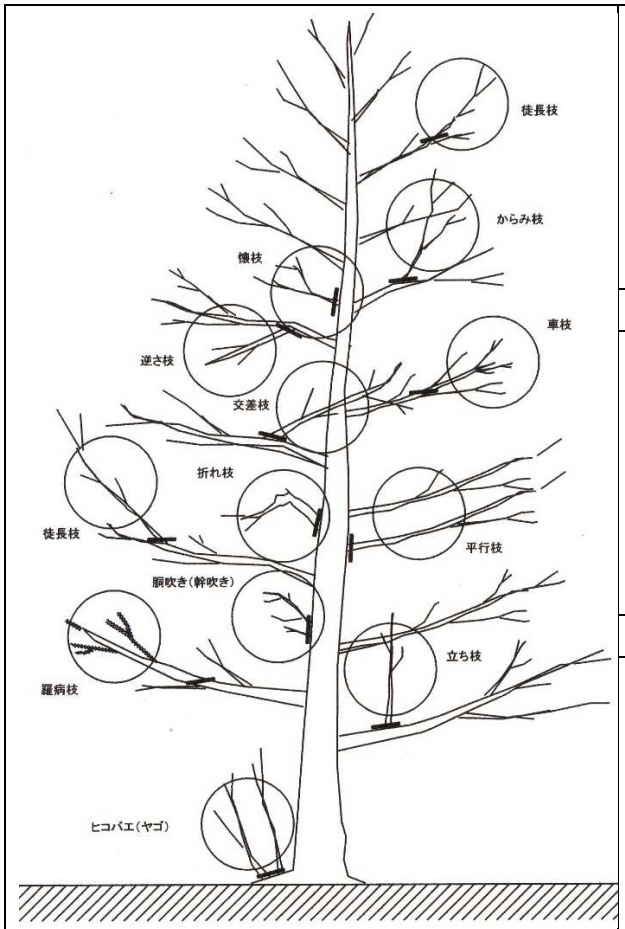
＊設計の意図を考慮し、重点管理エリアと粗放管理エリアなどを設定し、メリハリをつけた植栽管理をすることが良好な景観維持と管理費の軽減につながる。

① 生垣や低潅木類の刈込は、原則年1～2回行う。場合によっては3回のものもある。
② 樹木の透かし剪定は、通常年1回行う。施設や植栽の計画によっては2～3年に1度の場合もある。
③ 果樹は毎年剪定を行う。花木も花殻摘みと透かし剪定は毎年行う。
④ 切り戻し剪定は必要に応じて行う。個人庭以外は2～3年に1度の場合もある。
⑤ 低木の間引き剪定は3～4年に行う。雑木の萌芽更新では10年前後で行うのが望ましい。
⑥ 樹勢が衰えている樹木のひこばえや徒長枝はむやみに剪定せず、更新のために将来の樹形を考慮して一部を残す。
⑦ 強剪定は樹木への負担と景観上好ましくないので原則行わないのが望ましい。

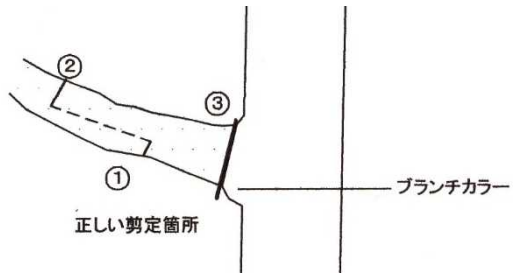
7. 不要な枝の種類

枯れ枝、病虫害に侵された枝、からみ枝、逆さ枝、徒長枝（トビ、著しく真上に伸びた枝）、懐枝（樹冠内部に多く集まった小枝）、車枝（1ヶ所から3本以上同じような枝を出している枝、1本残して剪定）などは剪定する。

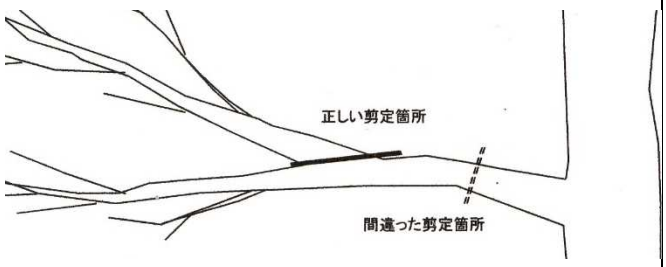
胴吹き枝やひこばえ（ヤゴ）は樹勢が衰えると発生させるので、むやみに剪定せず、樹勢を回復させてから切る。



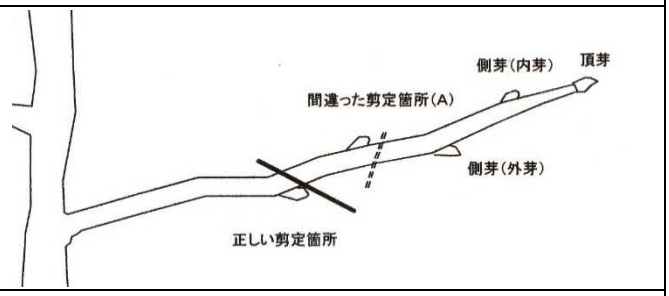
・剪定する樹形を乱す枝



・太い枝の剪定場所と方法



・透かし剪定

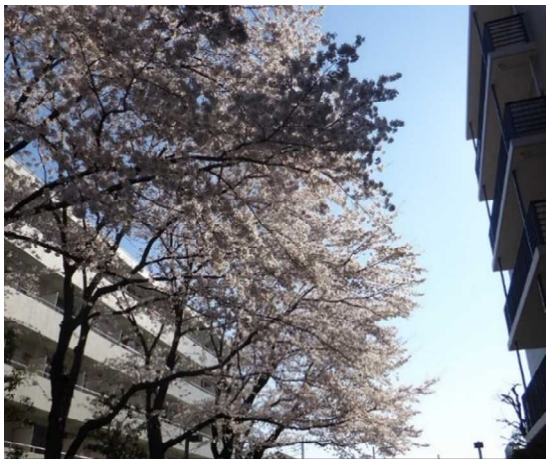


・芽と剪定場所

＊関連参考図書：「ビジュアル版　庭師の知恵袋」日本造園組合連合会編・講談社、「庭木の剪定コツとタブー」日本造園組合連合会・講談社、「庭木の剪定　コツのコツ」富澤彰夫・新井孝次郎監修・小学館

 無断転用禁止

8. 分譲マンションのサクラの剪定例

・マンションのサクラの剪定前の状況。台風時の枝揺れによる近隣への影響を考慮して剪定を検討。	・下枝が車にあたり、その部分の枝枯れと落下の危険がある剪定前の状況。
・高所作業車を使用した剪定	・1月に樹冠上部の3～4m切り戻しと全体の透かし剪定実施後の状況
	
・1月の透かし剪定実施後の状況	・剪定した年のサクラの開花状況

 無断転用禁止